

平成23年度 第6回 鉱業博物館市民開放講座

「男鹿半島南岸の津波石」

講師：白石 建雄 氏

(鉱業博物館研究員、秋田大学名誉教授)

日時：平成24年2月24日(金) 15:00－16:00

会場：秋田大学大学院工学資源学研究科附属鉱業博物館3階講堂
〒010-8502秋田市手形字大沢28-2 電話018-889-2461

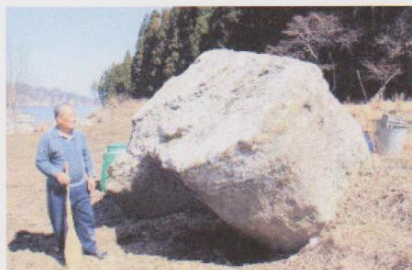
秋田県の沿岸部は過去くり返し津波を経験してきました。しかし歴史時代以前の地震・津波についてはほとんど何も分かっておりません。津波石は津波によって陸上に運ばれた巨石であり、過去の津波に関する語り部です。このたび男鹿半島南岸、潮瀬崎の隆起波食台上に散在している巨大な岩塊は数千年前に起こった大津波に由来するものであると考えられるに至りました。潮瀬崎の地形、岩塊の産状、津波由来と考えられる根拠などについてお話します。

入館・聴講無料

津波石

過去の大津波の証言者

明治三陸津波で打ち上げられた津波石「本当だった」



明治三陸津波で打ち上げられた津波石。東日本大震災の津波もここまで達した＝岩手県田野畑村



明治三陸津波(1896年)で岩手県田野畑村の羅賀地区に運ばれてきた「津波石」に、東日本大震災の津波が再び到達した。石が動くことはなかったが、羅賀の住宅計150軒のほぼ半数が全壊。あらためて津波の威力を見せつけた。

津波石は海岸から約360メートル、標高約25メートルの場所に2個ある。重さはいずれも約20トン。30メートル以上ともいわれる波高で集落を壊滅させた明治三陸津波の際、現在地に打ち上げられた。過去の調査では、もともと海底にあった岩石とされている。種類は水成岩。

「子どものころ、津波で運ばれた石と聞かされて冗談だと思っていたが、本当だったのか」。津波石がある場所の近くに住む漁師の山根峯行さん(76)が驚く。

羅賀では、がれきが集落の斜面を押し上げられ、津波石の手前に積み上がった。山根さん

の自宅前に立っていた明治三陸津波の犠牲者を鎮魂した石碑も流され、真っ二つに割れたという。住民約450人のうち9人が行方不明のままだ。

津波の破壊力を伝え続ける津波石。昭和三陸津波(1933年)の翌年に生まれた山根さんは「がれきで勢いは止まったが、今回の津波は明治、三陸の時より強力だったかもしれない。恐ろしい力だった」と話した。(東野滋)

河北新報

2011年04月13日水曜日



東日本大震災時の大槌町の津波石(2011. 7. 22)



男鹿半島潮瀬崎の津波石(スケールは1m)